



# TAKING OFF

大阪学院大学／大阪学院短期大学  
国際センター ニュースレター

Vol. 12 Spring, 2011



紙面の関係でここには掲載できませんでしたが、このニュースレターを作成中にもカナダのフレージャーバレー大学から支援活動の報告がありました。海外提携大学の支援活動については、詳細を国際センターブログに掲載していますので、ぜひそちらをご覧ください。

<http://inoffice.blog102.fc2.com/>



Love Japan 311の募金活動の様子

## 1. 日本と海外をつなぐ支援の輪

3月11日午後2時46分に発生した未曾有の自然災害により多くの方が犠牲となり、また家や家族を失い、未だに避難生活を強いられています。大阪では被害がなかったとは言え、残念ながら本学の国際交流プログラムでも約10名の外国人留学生在がプログラム途中で帰国しました。

そんな中、海外の提携大学での支援活動の報告が届きました。まず台湾の台中市にある靜宜大学では、本学からの留学生の福田汐理さん(外国語学部3年次生)を含む日本からの留學生が中心となりボランティア団体「Love Japan 311」が設立されました。3月16日から募金活動が開始され、現地の学生、教職員、他国からの留學生たちが協力してくれています。そしてタイのバンコク大学からは日本の地震・津波の犠牲者に向けて30万円の義援金が届けられました。3月17日から25日まで本学学生4名がバンコク大学主催のワークキャンプに参加し、24日には修了式が行

われました。そこでMathana学長より、参加した羽衣国際大学、大阪国際大学、OGUに義援金が託されました。この義援金は、日本赤十字社に寄付される予定になっています。

このように海外からも日本に向けて温かい支援が届けられています。私たちもできるところから支援の輪を広げ、被災地の日も早い復興に協力していきましょう。



修了式での義援金の贈呈

## 2. 派遣交換留学の現状と今後

昨年度、秋と春に交換留学に出発した学生は合計30名でした。今年度は大幅な増加が見込まれると期待していましたが、2011年秋に交換留学に出発するのはわずか11名にとどまりました。この11名の内訳は、アメリカ1名、カナダ3名、フランス2名、ドイツ2名、オランダ1名、韓国2名です。ここ2年ほどかなりバラエティに富んだ国へ学生を派遣してきたことを考えると、この結果は少し残念です。しかし、人数の減少はあったものの、今年は嬉しいことが一つありました。初めてのケースとして、昨年秋に国際学部の留学プログラムに参加した学生1名が、引き続き交換留學生に選ばれました。OGUでは、在学中の1年間は海外留学をすることができるという規定があるので、この学生のように2つの異なる大学に1学期ずつ留学することも可能です。この学生は、国際学部3年次生の末武 侑希子さんで、昨年8月から12月まで学部留学プログラムでニュージーランドのワイカト大学で英語を勉強し、今年の9月から来年1月まで

オランダのフォンティス応用科学大学で交換留學生として英語を勉強する予定になっています。4年間の学生生活の間に、2つの国で勉強できるチャンスはなかなか得られないと思いませんか。

今回の人数激減の理由には様々な要因が絡んでいると思いますが、学内の留学プログラムも交換留学以外に国際学部の留学プログラム、経済学部・経営学部のグローバルコースの留学、さらには短期海外研修やケンブリッジ大学クイーンズカレッジ短期留学と多様化してきています。昨年は、1学期間以上の長期プログラムへの参加学生の合計が約70名でした。国際センターでは、交換留學生を増やすことのみならず、学内の他のプログラムもサポートし、年間100名程度の学生を長期海外留学へ送りだすことを今後の目標に定めて取り組みたいと考えています。

学生の皆さん、OGUには様々な海外留学のチャンスがあります。そのチャンスを活かして、あなたにしかできない留学スタイルを見つけてください。

### 目次:

国際学部留学プログラム	2-3
春期海外研修: タイ・ワークキャンプ	3-4
日本語短期研修	4
国際センター News	4





### 3. 国際学部留学プログラム～体験レポート

2009年度、国際学部は「体験型学修」の一環として、学生全員を対象にした「留学プログラム」を開設しました。このプログラムでは、2年次後期に1ヶ月もしくは1学期間の留学が必修となっています。派遣初年度となる2010年にはハワイ大学マウイコミュニティカレッジに2名、ニュージーランド ワイカト大学に16名、韓国 ペジエ大学に3名、台湾 静宜大学に1名の合計22名がそれぞれの大学で1学期間勉強し、また1名がハワイ大学マウイコミュニティカレッジ、2名がワイカト大学の1ヶ月プログラムに参加しました。今回は、ワイカト大学に1学期間留学した学生2名がそれぞれの体験をレポートしてくれます。短い期間とは言え、大変な思いをしながらがんばったことによって、大きく成長した姿が垣間見えます。この体験を今後につなげてくれることを期待します。



左からホストファーザー、犬のWillow、本人、一緒にステイした中国人留学生のCushla、ホストマザー

#### “私を変えた出来事”

すえたけ ゆきこ

末武 侑希子

国際学部3年次生

**学** 校やニュージーランドでの生活に少しずつ慣れた9月のある日、その事件は起こりました。

私のホストファミリーは共働きだったので、学校から帰ると誰も家にいないのが普通でした。その日も私が家に帰ると誰もいず、犬と遊ぼうと思って庭を見たのですが、犬もいません。私はふと、昨日ホストマザーが「明日は雨だから、犬をガレージに入れておくれ。だから、戻ったらガレージから出してあげてね」と言っていたのを思い出しました。私がガレージの扉を開けると、犬が待っていたかのように飛び出してきました。しかしその後、キッチンへ行くと、メモが置いてあったのです。そこには、「犬がガレージにいるから出さないでね」と書かれていました。そこで初めて自分が

大きな勘違いをしていたことに気がきました。急いで犬をもう一度ガレージに戻そうと思ったのですが、何をやってもまったく駄目で、仕方なくそのままにしておきました。ところがしばらくすると犬の鳴き声がびたりと止み、へんなにおいが鼻をかすめました。嫌な予感がし、気になってリビングに行ってみると、犬の足元のカーペットが一部分だけ変色していました。それはおしっこだったのです。すぐに拭き取ったのですが、臭いがすごく、まったくきれいになりませんでした。そうこうしているうちに、ホストマザーが帰ってきたので、すぐに事情を説明し、謝ると、「昨日の話をおぼれていたの？」と言われました。勘違いしていたことを伝えると、「そうなの、大丈夫よ」と優しく言ってくれました。怒られると思っていたのですが、すんなりと許してくれ、その上掃除もしてくれたのです。ほっとしたのと同時に、言われたことを理解していなかったのにわかったふりをして、適当に流してしまっただけに対して、後悔と申し訳ない気持ちで一杯になりました。

この出来事がきっかけで、今まで何となくわかったふりをしてきた自分の姿勢を変えようと

心に決め、一生懸命英語を勉強しました。例えば、会話中にわからない表現や言葉があった時には、自分の分かる言葉で言い換えて確認したり、積極的に質問をしました。また、質問するだけでなく、そこでわかった言葉を日常会話の中で使うようにしました。このように努力しているうちに、これまで質問することは恥ずかしいことだと思っていたのですが、わからないままにいることのほうがよほど恥ずかしいことだと気がきました。これは私が勉強していく上でも、生活していく上でもとても大切な気付きになりました。

私にとってはこの留学が初めての海外経験でした。出発前に不安はありましたが、良い人たちに恵まれて、とても充実した日々を送ることができました。この留学のおかげで、もっと色々な国へ行ってみたく思うようになり、3月にはタイ・ワークキャンプ、そして9月にはオランダへ交換留学に行きます。これからも将来国際機関で働くという夢を実現できるようにがんばりたいと思います。

#### “留学で得た大切なこと”

きゆうま ゆり

久間 百合

国際学部3年次生

**実** はニュージーランドに行くのはこれが2度目で、高校生の時に海外研修として行ったことがありました。でも高校生の時に行ったのは南島で、今回は北島ということだったので、また違ったニュージーランドの生活が経験できるに違いないと楽しみにしていました。それと同時に、もちろん不安な気持ちも抱えていました。それは自分の英語力に対しての不安でした。海外に行った経験があっても短期間でしたし、今回

自分の英語に対する考え方や積極性は確実に変わったと思います。

の留学が決まってからは準備だけで手一杯で、英語の勉強があまりできませんでした。「このままの状態で行って上手く生活していけるのだろうか」という不安な思いで出発を迎えました。

ご存知のように、日本とニュージーランドは気候が正反対です。私が出発した8月の日本は真夏でしたが、到着したニュージーランドは結構な寒さを感じる冬でした。しかし、空港か

ら少し離れると辺りには緑の草原が広がっていて、羊や馬も間近で見ることができました。空港から私が住む予定だったHamiltonという町に近づく頃には、自然に不安な気持ちを忘れ、期待を膨らませていたことを今でも覚えています。

私のホストファミリーは南アフリカ出身で、父・母・娘という家族構成で、初対面の私を温かく迎え入れてくれました。そして、なんと留学初日から、私はホームパーティーを体験することができました。ニュージーランドのホームパーティーは、何家族かが料理を持ち寄って集まり、世間話などをしながら食事を楽しむというのが一般的です。その日は親子共に仲のいい5家族ぐらいが集まり、笑いの絶えない時間を過ごしていました。ちなみに約3カ月の留学の間で5回ほどのホー





ムパーティーを体験できました。日本ではパーティーに参加する機会が少ないため、これは貴重な体験になりました。また、ニュージーランドの食に関して、全く問題がなかったことも私にとってはラッキーでした。

休日以外は毎日通っていたワイカト大学では、中国、韓国、サウジアラビア、チリなど、様々な国の学生たちと出会い、仲良くなりました。全員が英語を勉強しにきている仲間なので、お互いに自分の言いたい事が英語で上手く伝わらない時などもありました。しかし、そういう時はお互いを理解し合おうという姿勢で、電子辞書を使ったり、ジェスチャーをしたりして、コミュニケーションを取りました。他大学の日本人学生も何人か

いましたが、ニュージーランドに留学に来て、日本語を話しては意味がないと思い、日本人の友達とも英語で会話したり、メールをしたりする努力をしていました。正直なところ、この約3ヶ月で「自分の英語力が確実に伸びた」と自信を持って言い切ることはできません。しかし、この留学を通して、自分の英語に対する考え方や積極性は確実に変わったと思います。

今回の留学では、多くの人との出会いがあり、その国の文化を知り、また様々な場所に行くことによって自然と触れ合うことができ、留学でしか得られない経験ができました。今後は、この留学経験を将来に繋げていくことができれば良いと思っています。



(上) ホトファミリーと一緒に  
(下) ホームパーティーで  
(本人左から2人目)

## 4. 春期海外研修: タイ・ワークキャンプ

OGUはバンコク大学主催のタイ・ワークキャンプに2007年春より参加しています。わずか数日のボランティア活動ではありますが、恵まれた日本から離れ、地球上にはまだまだ厳しい中で生活している人たちが多くいることを認識し、私たちができることは小さいけれど、継続して協力していくことの大切さを学ぶことができます。このような活動が学内に浸透し、もっと大きな輪が広がれば良いと思います。今号では、OGUから学生の引率として参加した職員1名と参加学生1名の体験談を掲載します。

しぶたに まさふみ

渋谷 将史

国際センター職員

**春** 期海外研修として実施しているこの「タイ・ワークキャンプ」プログラムは、本学の提携大学であるタイのバンコク大学(以下BU)が休暇中に農村部で行っている学校の建設作業の一部を体験するというもので、日本からは本学を含む3大学が参加しています。今年は3月17日から25日までの日程で、チュンポーン県にある町の小学校の多目的ルームの建設作業を手伝いました。

チュンポーン県は、バンコクから南へ約500kmに位置し、果樹や天然ゴムの栽培を中心とした農業や漁業が盛んに行われています。また、スキューバダイビング客が訪れる観光地としても有名です。



さて、ボランティア作業とはというと、ブロックを積み上げた壁と屋根の骨組みまでがすでに出来上がっており、そこから壁をセメントで塗り固めていく作業を手伝うというものでした。日本の真夏のようなきびしい日差しと湿気のなか、重さ20kgほどあるセメント袋を運んで砂と混ぜ合わせたり、周辺の掃除をしたり、比較的単純な作業を中心に行いました。BU学生はタイ語しか話せない学生も多いため、最初はお互い戸惑っているようでしたが、休憩中に一緒にやるゲームなどを通して、自然に打ち解けていったようです。現地の学生との合同作業や生活をともにするこの研修では、このようなタイの学生たちとの深い交流も大きな目的の一つと言えます。



左から多目的ルーム、バンコク大学のキャンパスで(本人右後方)、キャンプ地で地元の方々たちと一緒にデザート作り

キャンプ生活では、余暇や食事中はもちろん、食後のレクリエーションなど多くの交流の場があり、参加した学生たちは同年代のBU学生たちから大きな刺激を受けたようです。特にレクリエーションでのBU学生のリーダーシップや協調性は本当に素晴らしいものでした。そんな彼らの姿を見て、日本の学生たちも精一杯やらなければと、必死にみんなで知恵を出し、協力し合いながら、自分たちが進行するレクリエーションや日本食の準備に取り組んでいました。それぞれが積極的に参加しようという姿勢になれたのは、今回のプログラムの大きな成果だったように思います。

9日間という短い期間ですが、貴重な経験、数々の刺激が凝縮されたプログラムです。百聞は一見にしかず。シャワー代わりに水浴びや教室の床での寝袋生活に抵抗がある人も、思い切って参加してみる価値のある研修です!





ながわ みずき  
**中川 瑞己**  
 外国語学部4年次生

**私**は昨年7月に1年間のドイツ留学から帰国しました。それをきっかけに、さらに他の国にも行ってみたいと思い、今年のタイ・ワークキャンプに参加しました。このプログラムは羽衣国際大学、大阪国際大学と合同で行っていて、キャンプ地は毎年異なり、今年はタイの南に位置するチュンポーン県へ行きました。

ここでは、このプログラムに参加して



チュンポーンのワークキャンプ地でのレクレーションタイムで(本人左端)

知った、興味深いタイの食文化や習慣を紹介したいと思います。

まず、私はタイ料理といえば「辛い」イメージがあったのですが、実は意外と甘いです。もちろん辛い料理も多いですが、タイ料理では唐辛子やナンプラー以外に砂糖もよく使います。なんとラーメンにも砂糖を入れます。チュンポーンではココナッツから作る砂糖が有名です。ちなみに、よく耳にするトム・ヤム・クンは一般的にあまり人気がないそうです。

次に、タイでは、国民が仏様と国王様をとて尊敬しています。タイの国民の95%が仏教徒で、街では店の横に釈迦像が立っているのをよく見かけます。そして通行人の半分ぐらいがその像に向かって合掌(ワイ)をしていました。「ワイ」とは、胸元や鼻の前で手を合わせるタイ式の挨拶です。大きな道路に面しているところだと、像の前を通過する車がクラクシヨガンを鳴らします。仏様に道中の安全を祈ってするそうです。また、王

様や王宮の人々の大きな写真も4車線道路の真ん中に飾られていて、彼らは本当に国民から愛されています。街では「王様大好き」と書かれたTシャツを着ている人もいました。

さらに、仏教の教えには「タンブン」というものがあります。これは「徳を積む」ということで、現世での良い行いは来世の幸福につながると考えられています。そのためかどうかはわかりませんが、今回出会ったタイの人たちはみんな笑顔で、親切な人たちばかりでした。そしてよく言われていることでもあり、私実際に感じたことでもありますが、タイの人たちは基本的に「のんびり」しています。年間を通して温暖な気候も、彼らの性格がおだやかである理由の一つかもしれません。

短期間ですが十分にタイの魅力を知ることが出来るプログラムです。興味のある学生は是非参加してみてください。新しい世界が見えるかもしれません。



(上) アサヒビール・吹田工場見学 (右) 修了式



## 5. 日本語短期研修～参加者の声

**前**号でも紹介した3週間のOGUでの日本語短期研修に参加した学生たちの体験談です。

### 韓国 スンチョンヒャン大学

#### パク・クネさん

「私は中学時代からずっと日本に行きたかったので、その夢が叶ってとても嬉しかったです。一番印象に残っているのはJ-Chatで、日本人学生と自由に話ができとても良かったです。それから大阪城を見に行ったり、伝統的な京都を体験したり、鹿がたくさんいる奈良にも行きました。面白かった思い出は、同じ研修生のイ・ジェファンさんが奈良で焼き芋を買ったら1本1,100円もしてみんなびっくりしました。それからは彼のニックネームは「さつま芋」になりました。このプログラムを通して、オーストラリアの学生たちにも出会え、いろいろな経験をしたことで視野が広がったと思います。また日本に来たいと思います。」

### オーストラリア

#### セントラル・クイーンズランド大学

#### ポール・キリングリーさん

「私は日本に来る前に少し平仮名を勉強した程度でした。でも私の日本語の先

生はいつも私を励ましてくださり、少しでも日本語が上達すると誉めてくださったので、目標に向かってがんばることができました。カタカナを習った時は、まるで暗号やクイズを解いているような感覚でしたが、カタカナのおかげで街に出ても表示が読めるようになりました。もちろん平仮名も勉強したので、今ではコンピュータやiPhoneで平仮名をタイプできるようになり、少しですが漢字にも変換できるようになりました。また、日本にいる間、少ししか話せない日本語を使って、たくさんの人とコミュニケーションを取りました。千里山セミナーハウスの近くに行き付けのバーも出来ました！このプログラムに参加し、本当にたくさんのことを学びました。またいつか日本に戻ってくる日を楽しみにしています。」

年齢もばらばら、さらには国籍や文化が違う韓国とオーストラリアの学生たちが一緒に参加した今回のプログラム。それぞれが交流を深め、多くを学んで帰国したようです。文中にも出てきたジェファン君は来月から2年間韓国の軍隊へ行く予定ですが、参加した学生の皆さんがまたOGUを訪問してくれる日を楽しみに待っています。

## 6. 国際センター News

### ★International Fair 2011

2011年5月11日(水)・12日(木) 13号館1階ラウンジ  
午後0時～午後6時

### ★国際交流プログラム修了式

2011年5月21日(土) 01-B1-02教室 午前11時  
フェアウェルパーティー

2011年5月21日(土) 12号館1階 学生食堂 LIVRE  
(リーヴル) 午後0時半～

### 大阪学院大学／大阪学院短期大学 国際センター

〒564-8511 大阪府吹田市岸部南二丁目36番1号

電話：06-6381-8434 (代表)

FAX: 06-6381-8499

Email: inoffice@ogu.ac.jp

国際センターBLOG“Taking Off”もご覧ください。  
<http://inoffice.blog102.fc2.com/>